

## 東京オリンピック聖火リレー再開を願い ひまわり（希望の灯り）の種まき



↑ひまわりの種まきに参加した皆さんの様子

3月26日（木）、広野駅東側ロータリーにおいて、東京オリンピック聖火リレー記念ひまわりの種まきを行いました。このひまわりの種は、去る2月27日（木）、ふるさと福島広野会の会長でもありボランティアグループの代表でもある坂本潤之輔さんから「希望の灯り」としてご寄贈いただいたもので、阪神淡路大震災など各地で被災された方々が植えたひまわりの種です。この度開催が予定された聖火リレーに併せて東日本大震災・原子力事故からの復興と「東京オリンピック2020」の成功を祈願して種まきを予定しましたが聖火リレーは延期となりました。種まきに参加を予定していたふるさと福島広野会坂本会長はじめ60名の町民らは折角の機会なので1年後の東京オリンピック聖火リレー再開に願いを込めて丁寧に種をまきました。

## 一般社団法人ほのぼの運動協議会が ワスレナグサを寄贈



↑社団法人ほのぼの運動協議会事務局（右）からワスレナグサの寄贈を受ける遠藤町長

3月9日（月）、一般社団法人ほのぼの運動協議会が広野町役場を訪れ、ワスレナグサを寄贈しました。当協議会は、東日本大震災の被災地へ活動資金、寄付金などの支援イベントを実施しており、今回寄贈されたワスレナグサは、ふたば未来学園高校、磐城農業高校、会津農林高校、岩瀬農業高校の生徒が震災支援への感謝と震災を忘れないでという未来への願いを込めて育てたものです。ワスレナグサは、広野町・楡葉町・浪江町の各町に400鉢ずつ寄贈され、3町を代表し遠藤町長が、作間由美子事務局長からワスレナグサを受け取りました。

## 東日本大震災追悼献花を実施



↑追悼献花の様子

3月11日（水）、東日本大震災から9年となり、震災で尊い命を亡くされた方や未だ行方不明のままとなっている方に対し、震災祈念公園にて追悼の献花を行いました。また、発災時刻である午後2時46分に防災無線でサイレンを鳴らし、1分間の黙とうを捧げました。新型コロナウイルスの感染症対策のため、関係者のみで実施し、遠藤町長や北郷議会議長、町議など約30人が参列し、犠牲者の冥福を祈りました。遠藤町長は、「災害に強い、安心・安全な町を築くことが亡くなった人への鎮魂となる。復興・再生に町民と共に邁進していく。」と挨拶しました。

## 新型コロナウイルス感染症予防のため 町民にマスクを配布



↑全町民に配布するマスクを袋詰めする職員ら

3月9日（月）、新型コロナウイルスの感染拡大でマスクの品薄状態が続いていることに対応するため、当町は新型コロナウイルス感染拡大防止及び町民の感染予防に関する措置として、防災備蓄品のマスク約10万枚を町外避難者を含める広野町民全員に1人当たり20枚を配布することとしました。3月6日（金）には、町内5カ所の医療・福祉施設に約3600枚を先行配布しました。

## ふるさと福島広野会会長が ひまわりの種を寄贈



↑ふるさと福島広野会坂本会長（右）からひまわりの種の寄贈を受ける遠藤町長

2月27日（木）、ふるさと福島広野会の会長でもありボランティアグループの代表でもある坂本潤之輔さんが広野町役場を訪れ、ひまわりの種を寄贈しました。寄贈されたひまわりの種は、阪神淡路大震災など各地で被災された方々が植えたひまわりの種でもあり、今後東京オリンピック・パラリンピック開催時期に合わせ、広野の子ども達が種植え活動をする予定です。また、同じひまわりの種は東京都江戸川区のオリンピック会場でも種植え活動を予定しており、ひまわりを通じ交流を深めていきます。

## 「ももいろクローバーZ」の 玉井詩織さんが来町



↑ももいろクローバーZの玉井詩織さん（左）と懇談をする遠藤町長

2月25日（火）、人気アイドルグループ「ももいろクローバーZ」の玉井詩織さんが来町し、4月18日、19日にJヴィレッジで開催される「ももクロ春の一大事2020～笑顔のチカラつなげるオモイ～」イベントへ向け遠藤町長と懇談しました。玉井さんは、「地元の方々の協力のおかげでライブができる。イベントを通して地元の人との交流も深め、町にとって良い意味での“一大事”にしたい。」と意気込みを語りました。しかしながら、「ももクロ春の一大事2020」は、新型コロナウイルス感染症対策により延期、次回開催予定日は2021年4月17日（土）、18日（日）となりました。

## 広野町ふるさと創造 ラウンドテーブルを開催



↑意見交換をする生徒たち

2月26日（水）、広野町公民館において、広野中学校第1学年生徒25名とふたば未来学園中学校第1学年生徒54名が意見交換と通じて交流するとともに役場職員を加え、広野町に対する提言を話し合う場としての広野町ふるさと創造ラウンドテーブルを開催しました。双葉8町村の学校では、地域を題材にした探求的な学習活動である「ふるさと創造学」を平成26年度より実施しており、各学校で子どもの発達段階や地域の実態に応じた教育活動を進めています。本ラウンドテーブルでは、その学びの成果が発揮され、教育と地域活性化の相乗効果とともに学校間交流が果たされ、生徒たちは楽しく真剣に意見交換を行いました。

## アグリノベーション活用型 営農モデル推進事業実施



↑正木内地区ほ場にリーフレタス、キャベツ、白菜を定植している様子

3月25日（水）～27日（金）、広野町正木内地区ほ場において、「アグリノベーション活用型営農モデル推進事業」として県事業の採択を受けたマルヤス産業株式会社の社員14名が天栄村より来町し、リーフレタス、キャベツ及び白菜を定植しました。この事業は、東日本大震災及び原子力災害により休耕地となっている当町の休耕地等を活用して、ロボット技術、情報通信技術（ICT）等の先進技術活用による大規模な野菜栽培モデル事業です。広野町は、引き続き、町内に点在する休耕地や遊休農地の活用を図り耕作放棄地化を防ぐとともに、町の農業発展と雇用創出に繋げる事業として推進します。